ATSUGI SYMPHONY ORCHESTRA
Since 1977

“厚木交響楽団 友の会”通信

厚木交響楽団
http://www.atsukyo.com

第27号／2015年3月

発行者：厚木交響楽団 友の会事務局

日差しが日ごとに明るさを増し、周囲に鮮やかな色が戻って来ました。一年で一番心浮き立つこの季節、友の会会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか？
明るく活力に満ちた春にふさわしく、来月開催予定の第７２回定期演奏会ではベートーヴェンの「田園」と二人のアメリカ人作曲家による作品をお届けいたします。
以前より団員からも要望の多かった「アメリカもの」ですが、ヨーロッパの作曲家と違ってあまり馴染みがないと思われる方も多いのではないでしょうか？
そこで、団内でもとりわけクラシック音楽通として知られる(!?)パーカッション担当の鈴木明さんに、今回特別に解説をお願いすることにいたしました。これをお読みになったら、きっと来月の演奏会に足を向けたくなりますよ！
（曲目の詳しい解説は、当日プログラムノートをお読みください。）

特集！ アメリカのクラシック音楽

クラシック音楽をお好きな方でも、米国（以下アメリカと記載）の音楽は「馴染みがないなぁ」と思われませんか？しかし、音楽の教科書を見ると、意外と多く取り上げられているのです。そんなアメリカの音楽を簡単にご紹介します。

アメリカ音楽の特徴は？

一言で言うと、**「多様性」**と**「明快さ」**が特徴です。「多様性」は、人種のるつぼといわれる多民族国家であることや、その歴史が強く影響しています。ネイティブ・アメリカンを始め、ヨーロッパ各地からの移民、奴隷として連れて来られた黒人などの音楽、さらにラテン音楽が混ざり、独特の個性を見せています。「明快さ」は、一般的なアメリカ人の気質とも言われますが、それ以外にも、ショービジネスや映画に代表される大衆文化が花開いたこと、文化的背景の異なる様々な人たちが聴衆であったことなどが影響していると考えられます。

アメリカ音楽の歴史と作曲家は？

アメリカも多くの作曲家を生んでいます。ここでは、教科書に載っている人や非常に重要な人を取り上げます。最初の有名な作曲家はフォスター(1826-1864)です。「アメリカ歌曲の父」とも言われていますが、多くの民謡や黒人音楽を偏見なく収集し、音楽に取り入れた最初期の音楽家でもあります。↗

黒人音楽は19世紀末頃から大きくブームになっていきます。当時流行した音楽でジャズの源流のひとつにあたる、ラグタイムで最も有名なのがジョプリン(1868-1917)です。また、アメリカの大学に赴任していた当時のドヴォルザーク(1841 -1904)は、黒人音楽の要素を取り入れた、交響曲第9番「新世界より」や弦楽四重奏曲「アメリカ」を作曲しています。

そのジャズやブルースを大胆に取り入れたオーケストラ作品で初めて大ヒットしたのが、ガーシュイン(1898-1937)の「ラプソディ・イン・ブルー」です。現在、オーケストラの重要なレパートリーのひとつになっています。また、その曲を編曲・オーケストレーションしたグローフェ(1892-1972)は、「グランド・キャニオン」という大傑作を残しています。

一方、いわゆるクラシック作曲家で最初の大物作曲家はアイヴス(1874-1954)です。独学のアマチュア作曲家で、様々な実験的手法を取り入れた大胆な作風を持ち、「祭日交響曲」では、日常で聞こえてくる音風景を大胆に音楽化するなど、後の前衛音楽としての環境音楽の先駆者でもあります。

アイヴスの後現れた、アメリカ史上最大の作曲家と言われるのが、コープランド(1900-1990)です。ネイティブ・アメリカン、黒人音楽、アメリカ開拓時代、メキシコ音楽などを取り入れた、鮮やかで明快な数々の作品は、アメリカ音楽の代表といってよいでしょう。

一方、民族的影響の少ない作曲家としては、「星条旗よ永遠なれ」などマーチで有名なスーザ(1854-1932)がいます。行進だけでなく、パーティーでの演奏なども数多く行われていて、クラシックの分野で言う「ポップス」に位置づけられます。

その分野で有名な作曲家が、アンダーソン(1908-1975)です。名前は知らなくとも、年末に街でよく流れている「そりすべり」を聴いたことのない人はほとんどいないでしょう。彼は作品の中で、タイプライターや目覚まし時計、紙やすりなど、日常的なものを使って、高い音楽的効果をあげています。

さらに、ミュージカルや映画分野でも優れた作品が多数あります。ミュージカル最大傑作のひとつである「ウェスト・サイド・ストーリー」を作曲したのが、バーンスタイン(1918-1990)です。アメリカ生まれで初めてのスター指揮者でもある彼は、同時期にミュージカル「キャンディード」を作曲し、今、多くの名だたる歌劇場が取り入れるほど評価され、クラシックとポップスの融合に成功しました。また、ジョン・ウィリアムズ(1932-)は、「スター・ウォーズ」で、ウェーバーやワーグナーの語法を巧みに取り入れた音楽で、壮大かつ劇的な効果をあげました。

戦後は全ての分野で前衛芸術活動がさかんとなりましたが、音楽も例外ではありません。その中で最も重要なのは、ケージ(1912-1992)でしょう。日常の音や環境も音楽であるという、環境音楽の分野で、「4分33秒」という問題作を発表しました。最近もテレビで取り上げていたので、ご存知の方は多いでしょう。

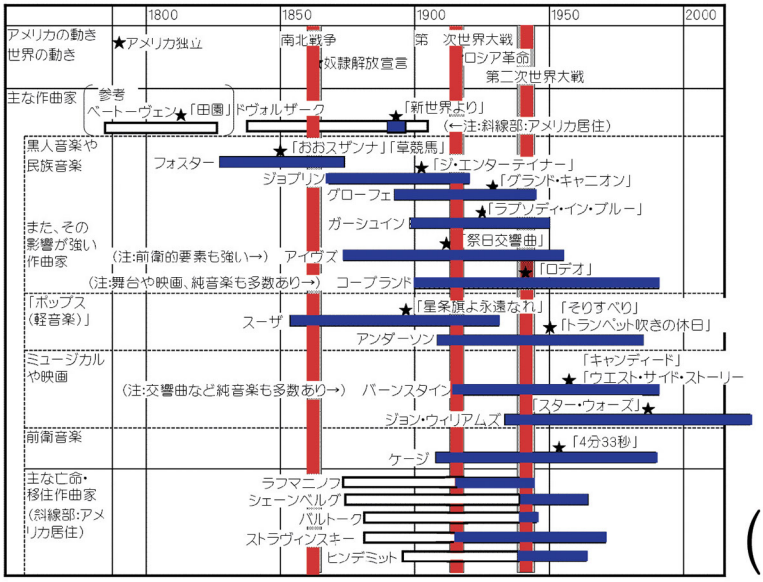
左：コープランド　右：バーンスタイン
（バーンスタイン / コープランド作品集
ユニバーサル ミュージックUCCG-4098
ジャケット写真より）

また、アメリカ出身ではありませんが、ドヴォルザーク以外にも多くの作曲家がアメリカで生活していました。特に、2度の世界大戦やロシア革命で、ラフマニノフ、シェーンベルク、バルトーク、ストラヴィンスキー、ヒンデミットなどの大家を含む、多くの作曲家・音楽家が迫害を逃れアメリカに亡命しました。特にシェーンベルクやヒンデミットは大学教授となり、後のアメリカ音楽に多大な影響を与えました。

最後に、そのようなアメリカ音楽の歴史を、まさに体現したかのような作曲家・音楽家をご紹介しましょう。指揮で有名なプレヴィン(1929-)です。ドイツでユダヤ系ロシア人の家庭に生まれ、アメリカに亡命、ジャズピアニストとして有名になり、映画音楽では「マイ・フェア・レディ」や「ジーザス・クライスト・スーパースター」の音楽を担当（複数の1人）、並行してオーケストラの指揮者として活動を始め、現在では世界を代表する指揮者のひとりとなっています。

（鈴木　明）

アメリカ作曲家年表（鈴木氏によるまとめ）



（青線：作曲者の在米期間
赤線：南北戦争と2つの大戦）

番外ルポ

日本ブルックナー交響楽団　第１回
ドイツ聖ニコライ教会公演ツアー
2015,2,11～2,17

現地で貼られたポスター

「日本ブルックナー交響楽団」！？聞いたことないなあ…？
それもそのはず、これは指揮者長野力哉先生のもと、「ドイツの教会でブルックナーの交響曲を演奏する」ために結成されたアマチュアオーケストラだからです。
長野先生が初めて厚響に登場されたのは２００９年の１０月、それ以来ずっとお世話になり深めてきたご縁で、このツアーには今回コンサートミストレスを務められた天野克子先生以下１１名の団員も参加して参りました。友の会事務局の岡田史子もセカンドヴァイオリンの一員として参加し、一生の思い出となるような素晴らしい体験をして参りましたので、会員の皆様にもぜひご報告したく、今回特別に「番外ルポ」として掲載させていただくことになりました。

『ブルックナーといえばオーストリア、リンツ郊外にあるザンクト・フローリアン修道院が聖地です。しかしザンクト・フローリアンに限らず、教会でのブルックナーの響きには惹かれるものがあります。楽譜に書かれた長い休止符の中に一体どんな響きがのこるのかな？』

この長野先生の想いは、約１年前に企画が持ち上がってから多少の紆余曲折を経ながらも、今年２月１４日ベルリン郊外シュパンダウの「聖ニコライ教会」において実現されたのです。
このオーケストラは主に、日ごろから先生とご縁の深い４つのアマチュアオケのメンバーから構成されていました。北九州、上野の森、秦野、そして厚響です。足りないパートは先生の友人で、在ベルリン３５年になるコントラバス奏者の高橋徹さんが手配して下さり、全てのメンバーが初めてそろったのは２月１２日の教会での初練習のときでした。

ベルリン最古の教会は、いくつもある大きなステンドグラスの窓から冬の陽が差し込み、あたたかく私たちを迎えてくれました。（実際暖房が入っていて、恐れていたほど寒くは無かったです。）座り心地の良い椅子、何よりその素晴らしい堂内の響きに魅せられ、一気にリラックスして最高の気分で練習に臨むことが出来ました。

午前中は観光、午後は練習、夜はオペラやコンサート鑑賞と充実した２日間を過ごして、いよいよ本番は１４日の夜７時からでした。すでに入場券は全て出払い、日本大使館からも聴きに来られるという、それに何より本場ドイツの聴衆の皆さんに日本のアマオケの演奏がどこまで受け入れられるのだろうか…
すっかり濃くなった夕闇の中、次々に集って来るドイツの人々、ファーストヴァイオリンとヴィオラの外側の人たちからは手の届きそうに近い場所に、そのお客様が座っています。

『ベルリン・シュパンダウの旧市街は、中世の面影を残した雰囲気のある町でした。町の中心にあるベルリン最古のニコライ教会で、オーケストラは十字架を背負い、壁面の大きなイエスが私達を見守りました。そこに溢れたブルックナーは、ものすごい響きでした。』

参加したメンバーの感想です。

Violin Ⅰ S.Iさん

自身のオケ活動の中でも最難曲の一つである「ブルックナー第５番」に加え、なんといってもお膝元の河の名前を持つ「シューマン第３番（ライン）」ベルリンの方々の耳にはどう聴こえるだろうか・・の不安もありつつも、寒い教会での長い２曲のプログラムでしたが、途中で退席される方も少なく、暖かい拍手とスタンディングオベーションで無事演奏することができました。当地は我々の熱気によるものか異常気象とも言える暖かさで、ベルリンの壁のそばの桜が咲いていたというニュースを、着ずに持って帰ったセーターとともに、帰国後聞きました。

Violin Ⅰ M.Mさん

長野先生に厚響を振っていただいたとき、日本語での説明から入るのではなく、タクトによって音楽を伝えようとする姿に感銘し、今回その先生の夢をかなえるべく参加しました。下手くそだと途中で帰ってしまうと脅されていたベルリンの観客ですが、ほとんどの方が帰るどころかラインを口ずさみながら聴いてくださり、ほんとに来て良かったなと思いました。

コンサートミストレス　K.Aさん

大変素晴らしい演奏会でした。満席のお客様のブラボーとスタンディングオベーションに、長かったきつい練習も感激の涙に代りました。教会のあるSpandauはベルリン中心部から４０分も離れた所でしたが中世の色の残る静かな佇まいの町で、ベルリンにしては暖かい日々をのんびり歩くことが出来ました。

Violin Ⅱ T.Tさん

いくつかのグループから成るオーケストラでしたが、一つの目的に向かって団結出来たと思います。これは「音楽の素晴らしさ」と改めて感じました。音楽がやれていて本当に良かった。西洋音楽本場の聴衆は本当に音楽を楽しんでいるようでした。体と一体になって生活に溶け込んでクラシックを楽しんでいるように思いました。短時間ながら観光も出来、日本と全く違う歴史を持つドイツをベルリンで垣間見ることが出来ました。

Viola S.Mさん

昨夏この企画を聞き、「２月の厳寒のベルリンに！？」と思いましたが、各地から集まった参加者と練習を重ねるうち、とにかくこの公演を成功させたいという思いがつのり、皆の情熱がベルリンで結実しました。ブルックナーとシューマンの演奏は厳かな空気の聖堂に素晴らしく大きな響きとなり、地元の方々の温かい満場の拍手に包まれ、これまでにない深い達成感を覚えました。

ベルリン写真館★ニコライ教会編

これがニコライ教会です

後ろから見ると…

教会の前に、私達のポスターが!!
(左上の白いもの)

◀初練習です

教会周囲の可愛い商店街

2Fにパイプオルガンが鎮座

本番終了！温かい拍手で満ちています

長野先生 渾身の指揮

ViolinⅡ F.Oさん

練習初日、ステンドグラス越しに柔らかい午後の陽が差し込む聖堂内、私の楽器から聴いたことのないような響きが流れ出して、高い天井に吸い込まれていくようでした。あの感動は忘れられません。生まれた国に数十年ぶりに帰って来られて、楽器もさぞかし嬉しかったのでしょう。そんな響きの中、ドイツ人のプロ奏者Peterさんの傍で弾くことができた事は私にとって一生心に残る素晴らしい想い出となりました。ベルリンはとても魅力的な街でした。ぜひまた訪れたいです！

Violin Ⅰ C.Yさん

初めての海外演奏会はとても楽しく素敵な一週間でした。会場の教会の響き、現地で参加して下さった方々との交流、お客様の温かさ。良い経験ができました。二つの交響曲はとても壮大で難しかったですが、参加できて本当に良かったと思います。現地での拙いドイツ語も通じて買い物や食事も楽しめました。厚響メンバーが多数参加したので心強かったです。

Fagotto A.Kさん

思いがけずプロの方と一緒に演奏することになり、最初はすごく緊張しましたがとても勉強になりました。また、海外で演奏するという貴重な経験ができ、とても嬉しく思っています。

ベルリン写真館★街歩き編

ベルリン大聖堂

ポツダム広場のソニーセンター

信号機から始まって
今では人気キャラの
「アンペルマン」

ドイツといったらこれ！

ベルリンフィルの本拠地「フィルハーモニー」

分断の象徴 ブランデンブルク門

「壁」の一部がポップなアートに変身！

こんな名画も見られます（撮影可）

ポストホルンの描かれた
可愛いポスト

写真協力：高橋徹様（在ベルリン） 高橋準爾様（外苑ビデオプロモーション） 佐藤秀義様（厚響） 渡辺克枝様（渡辺 Vn. 教室主宰）

Violin Ⅱ　Y.Eさん

ベルリンの中心街は、デザインの進んだ都会という感じでした。排水管がピンクだったのに驚きました。
演奏会会場の教会のあるシュパンダウは郊外の町で、教会の周りにかわいい建物が並んでいて、とてもいい雰囲気で落ち着きました。本番はブルックナー、シューマンの２曲を休憩なしで演奏するので、体力が持つのかが１番心配でしたが、無事に演奏できました。後半のシューマンは気分的にも楽になり、明るい曲なので、楽しく弾くことができました。お馴染みの曲のようで、曲が始まると、お客様の表情が明るくなったのが見えて、ドイツで演奏できて良かったと思いました。

Horn　K.Yさん

１２日午後、ニコライ教会での最初の練習、ブルックナー交響楽団の音が教会内に響きました。この響きは初めての経験です。長めの残響ですが、ワンワン鳴り響くのではなくいろいろな音がクリアに聞こえてくるのでした。教会内ということもあるのでしょうが、敬虔な気持ちになりました。
14日の終演後の指揮者の言葉に「お客さんの我が子の発表会を聞くような空気」を感じたとありましたが、12日夜、オペラを観に行ったとき、似たような感じを持ちました。
その夜のオペラ鑑賞は、言葉がわからず長旅と時差ボケで眠気が強く辛いものがありましたが、演奏者と観客の間にとても暖かいものを感じ、至福の時間でした。

最後にこの場をお借りして、今回のツアーで大変お世話になりました ベルリン在住の高橋徹様、（株）エムセックインターナショナルの丸尾直史様、岩本絵美様 他、多くの方々に心からのお礼を申し上げます。

これからの
演奏会予定

●第 73 回定期演奏会

9月6日（日）16:00 開演（予定）　厚木市文化会館大ホール

曲目/モーツァルト：ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲K364
（ヴァイオリン独奏　天野克子、ヴィオラ独奏　阿部真也）
マーラー：交響曲第１番ニ長調「巨人」
指揮/モーツァルト：長野力哉
マーラー：田久保裕一

厚響のコンサートミストレスを30年以上務めてこられた天野先生が、親しく御交友のあるヴィオラ奏者 阿部真也さんとモーツァルトの協奏交響曲で共演されます。もう1曲は大作、マーラーの「巨人」！！お二人の指揮者をお迎えするのも異例ですが、きっとスペシャルな演奏会になることでしょう。

●第 74 回定期演奏会

12月13日（日）14:00 開演　伊勢原市民文化会館

曲目/未定
ヴァイオリン独奏/木野雅之（日本フィルハーモニー交響楽団ソロコンサートマスター）
指揮/柴田真郁

オペラでもお世話になった柴田先生のご紹介で、日フィルソロコンサートマスター木野雅之さんをお迎えしての、ヴァイオリンコンチェルトを真ん中に据えたプログラムになるでしょう。日程が先に決まっていたので、会場確保のため近隣のあちこちのホールをあたった結果、お隣の伊勢原市に決まりました。

●関係団体の演奏会

・日本ブルックナー交響楽団 ドイツ「聖ニコライ教会」公演帰国報告コンサート

5月17日（日）14:00 開演　光が丘 IMAホール（都営地下鉄大江戸線「光が丘」駅下車すぐ）

入場料/1,500円（全席自由）
曲目/ブルックナー：交響曲第5番　変ロ長調
シューマン：交響曲第3番　変ホ長調「ライン」
指揮/長野力哉

この通信でもルポを載せました「日本ブルックナー交響楽団」の帰国報告コンサートです。ベルリンのプログラムと全く同じものを、今度は都内のホールで再演いたします。教会での響きとはまた違ったものになるでしょうが、ベルリンの音楽関係者からも高い評価を受けた、長野先生のブルックナーをぜひ聴きにいらしてください。チケットご希望の方は、友の会事務局、岡田史子（046-248-1708）までご連絡いただきますようお願いいたします。

・杉並区民オペラ公演

7月25日（土）17:30 開演、7月26日（日）14:00 開演　杉並公会堂大ホール

入場料（全席指定）/S席　￥6,000　　A席　￥5,000　B席　￥4,000
曲目/モーツァルト「魔笛」（日本語上演）
総監督、指揮、訳詞/大久保　眞　　演出/森山　太
管弦楽/杉並区民オペラ管弦楽団　　合唱/杉並区民オペラ合唱団

昨年まで５年に渡り共演させていただいた杉並区民オペラが、新たに専属オーケストラを立ち上げましたが、その設立に当団のメンバーも関わり、当日も数名の団員が参加します。これまで夏には杉並まで足を運んでくださった会員の方、今年もいかがでしょうか？詳しくは同封のチラシをご覧になり、チケットのお問い合わせは、直接杉並オペラ事務局の方までお願いいたします。

事務局より

今回は二つの大きな特集を組み、またこれからのコンサートのご案内も盛り沢山となりましたので、特別に6ページに渡っての紙面となりました。いかがでしたでしょうか？
冒頭でもご案内いたしましたが、来月開催の第72回定期にお迎えしたのは、松村秀明先生です。
今回が3回目のご登場となります、若々しくてフレッシュな松村先生の「田園」「アメリカもの」をぜひお楽しみください。皆様のご来場をお待ちしております。

今年度も会員を継続してくださった皆様には、心よりお礼申し上げます。
これからも厚木交響楽団をよろしくお願いいたします。

◎厚木交響楽団友の会では、会員を随時大募集しています。お知り合いやご友人で入会希望の方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介下さい。